清泉女学院大学・短期大学
国際交流センターNEWS
2016.07
tel 026-295-1325
chiiki@seisen-jc.ac.jp

2016年度開始にあたって

国際交流センター長　籔田　由己子

4月に新入生を迎え、早くも3か月がたちました。国際交流センターでは、今年度も派遣・受入共に力を入れていきたいと思います。派遣事業としては、1学期を海外の学校で過ごすセメスター留学、夏休み（オーストラリア、台湾、韓国、モンゴル）と春休み（ハワイ、カンボジア）の海外研修が主なプログラムです。清泉女学院のプログラムは、異文化間能力（態度・知識・スキル）を養成することを目的としており、どのプログラムにおいても、現地の人と積極的に関わる態度を養成することと、プログラムの目的で設定された問いの答えを探しながら現地で過ごすように設計されています。また、事前学習により、知識をもって研修に参加し、事後研修により、自分の学びを深める機会も設けられています。このような設定により、海外研修プログラムは、単なる海外渡航経験を得るだけではない、「問を持った旅、学びを創る旅」となっています。

受け入れ事業としては、姉妹大学である漢陽女子大学（韓国）から3名の交換留学生を受け入れています。彼女たちは7月の終わりまでの1学期間清泉で学び、単位取得を目指します。また6月には短期の訪問団を、学術協定校の国立高雄第一科技大学（台湾）からは約6週間のインターンシップの学生を受け入れています。今年の新しい取り組みとして、ミズーリ大学コロンビア校の学生を2日間受け入れました。ミズーリ州は長野県の姉妹県であり、2週間の長野滞在の一環として本学を訪れ、学生交流、文化体験を行いました。学生交流では、地獄谷や野沢温泉への日帰り旅行、清泉生と一緒のチームビルディング・ワークショップ、インターナショナルカフェでの英語の交流等が行われました。

これからも学生たちの視野を広げていける機会を提供していきたいと思います。

ハワイ語学研修（2016.2.21 ～ 3.6）

漢陽女子大セメスター留学生着物体験

ミズーリ大学来学（2016.5.24 ～ 5.25）

カンボジア文化研修

カンボジアで学んだこと

国際コミュニケーション科　2年　青木梨央

滞在中、毎日が新しいことの発見や驚きで感情が追いつかないくらいであった。日本との違いも日本の再発見もとても多かったと思う。

カンボジアの暑さは、日本の夏とはまるで違い、じっとしていても汗が頬を伝うくらいであったが、町の人たちの元気に仕事をしている姿が印象的であった。

ボランティアとして3日間孤児院を訪れた。最初は孤児院に行ってどうすればいいんだろうとばかり考えていた。しかし、その戸惑いは子供たちに会ってすぐに消えた。とても人懐こい子供たちはすり寄ってきて、なんの不信感も持たず手をとって「遊ぼう」と目で訴えてきた。最終日になるころには私たちの名前を覚えてくれ、今日でお別れなのかと寂しさを強く感じた。わたしに興味をもって近づいてくれ、たくさん触れ合ってくれた子供たちに感謝している。

女性の自立を助けるNPO、かものはしプロジェクトに参加している現地の方がこんなことを言っていた。

「彼らは、今日を生きることが精一杯で、明日や未来のことは二の次である。未来を見据えた生き方が難しい。」

わたしたちは何でも後回しにしてしまうことが多いのではないか。今日を精一杯生きることに必死な彼らを見ていたらそう思った。まっすぐすぎる彼らが羨ましかったのかもしれない。

この研修で彼らから学ばせてもらったものは、「今生きていること」。わたしが得たもの、それは「今を精一杯生きること」。この二つである。

カンボジア文化研修（2016.2.20 ～ 2.26）

セメスター留学（3か月レポートより）

継続的な努力で自信

人間学部　3年　小泉有加

カナダでの毎日は非常に充実しています。新しいコースで友人も増え、課題に追われる日々ですが、やり甲斐に感じられ楽しいです。平日はグループや個人でプレゼンテーションの準備をし、休日は課題をしたり、観光をしたりしています。

最初はプレゼンテーションが思うようにいかず困りましたが、練習を重ねることに自信がついてきました。日常会話については特に意識していませんでしたが、自然に楽しくやり取りができるようになっています。毎日ボキャブラリーの復習をすることでしっかり身についていると実感しています。日常生活でも特に困ったことはありません。

毎日課題に追われていると自分のやりたいことを先延ばしにする癖があるので、to doリストを作るなど工夫しながら改善していきたいと思います。新しい先生や友達との出逢いを大切にし、自分の目標を再認識し継続して頑張っていきます。

カナダにて（写真中央が本人）